

# さいたま市退職校長会会報

発行責任者  
加々美 健一

## あたりまえの

### 深み

さいたま市退職校長会

副会長 大木 繁司

道元禪師が中国から帰国し、その第一声は、「目は横に鼻はたてについていることがほんとうにわかった」といわれている。全くあたりまえのことである。中国で長く修業で積まれた第一声と聞けば、「あたりまえ」の深い意味が身に染みてくる。蘇東坡もまた、「柳は緑、花は紅」といつている。

教育もまた、この根本理念はよい授業を志向する後進にとつて「あたりまえ」の深みに届い

たメッセージでもある。

特に、よい授業をすすめるにあたっては、「教材研究」を十分にし、「常に健康で」気分よく授業に臨み、生徒を理解しえた教室の充実が大切である。

よい授業の推進にあたっては、教師との対面が大切で、教師とのやりとりが重要であり、「あたりまえ」の深みに到達するための第一歩でもある。

終わりにあたって、小生のような高齢のものに、さいたま市退職校長会副会長に取りたてて下さった、加々美会長の決断に感謝する次第です。会長さんのご健康と長寿を祈念するものです。



ここで、学生時代からやっている俳句をひとつ

大レース

了えしプールに

来て泳ぐ

教室の

鏡の中の

青嵐

学校の

まわりを歩く

水落ちて

(筆者は「俳句」で埼玉文学賞を受賞されています。)



— 大木 繁司 副会長 —

## 目次

### ◇巻頭言

さいたま市退職校長会

副会長 大木 繁司

1

### ◇令和三年度

さいたま市現職・退職校長

教育推進協議会

○教育推進協議会について

○研究発表 紙上発表 要旨

太田小学校 校長 千明 勉

三室中学校 校長 津田 顕吾

退職校長会 金子 泰久

2

3

4

5

### ◇施設紹介

『自然の家 基本理念』

自然に触れ 自然に学び

自然で鍛える

館岩少年自然の家

所長 佐藤 浩市

6

### ◇班だより

○浦和班 三村 昇 ○与野班 佐々木 克己

○大宮班 溝口 正巳 ○岩槻班 岡野 功

7

### ◇談話室 く私の一言く

小林 俊雄・常見 昌弘

小林 達哉・柴崎 邦夫

駒宮 寿夫・益子 聡

萩原 昇

9

10

11

12

### ◇叙勲受章者・ご長寿者 一覧表

### ◇編集後記

題字・加々美 健一

令和三年度さいたま市

現職・退職校長教育推進

協議会は紙上発表に

新型コロナウイルスの第五波が猛威を振るい、社会生活全般に甚大な影響を及ぼしています。

新聞やテレビでは、都道府県別新規感染者・重症者・死者数の推移、ワクチン接種やその後遺症、飲食店の営業時間短縮や酒類の提供、給付金の早期支給リモートワーク等が連日のように報道されるようになりました。

このような状況から、今年度の現職・退職校長教育推進協議会を予定通り実施することは困難と考え、中止することに決定しました。

本協議会は現職・退職校長が一堂に会して研修を行う貴重な機会です。また、「彩の国教育の日」の協賛事業として、今年度十九年目を迎えています。このように伝統のある協議会を、昨年度に続いて本年度も中止せざるを得なくなつたことは極めて残念であります。しかし、退職・現職校長の皆様

の安全第一を考慮すると、やむを得ないと考えました。

そこでそれに代わる措置として、研究発表の概要を会報第三十五号（本号）を利用して紙上発表することにしました。発表者の太田小学校 千明 勉校長、三室中学校 津田 顕吾校長、退職校長会 金子泰久会員には、

ご多用のなか原稿執筆をいただき、誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

第五波の感染数は、十月末頃から急激に減少し緊急事態宣言は解除されました。しかし決して安心できません。いつまた第六波が襲来するかも、まったく分からない状況です。

さいたま市退職校長会は、来年度こそ現職校長との一堂に会しての研修・交流が復活し、その後も末永く続けられることを強く願うところでございます。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和三年十一月十八日

（加々美 健一）

情報提供 教育長からのメッセージ

二学期開始に伴い、教育長より児童生徒・保護者・学校教職員あてにメッセージが発出されました。

コロナ禍で不安に感じていた児童生徒・保護者にとつて勇気づけられたのではないのでしょうか。児童生徒あてのメッセージのみ紹介いたします。

児童生徒の皆さんへ  
～2学期開始にあたっての教育長メッセージ～

さいたま市の児童生徒の皆さん、こんにちは。さいたま市教育長の細田眞由美です。

いよいよ2学期が始まりましたね。本当だったら「勉強を頑張りたい」「友だちと会うのが楽しみ」など、わくわくした気持ちで新学期を迎えるところだと思います。しかし、現在、新型コロナウイルスの変異株（デルタ株）が猛威を振るい、子どもへの感染も広がっていると報道されており、皆さんの中には、不安や悩みを抱えている人もたくさんいることでしょう。オンラインで自宅から学習することになった人もいますが、同じ場所にいなくても、みんな仲間です。決して一人ではありません。安心して、自分のペースで2学期も生活していきましょう。

もし、不安なことや心配なことがあったら、一人で悩まず必ず近くの大人に相談してください。不安な友だちがいたら、声をかけてあげてください。そして周りの大人に伝えてください。

今は、別々に勉強をしても、きっと一緒にまた生活できる日がきます。学校の先生も応援しています。皆さん、2学期も一緒に頑張りましょう。

令和3年8月26日  
さいたま市教育委員会  
教育長 細田 眞由美

## 研究発表 要旨

## ◇小学校教育の諸課題

「家庭・地域等と連携した

開かれた学校づくりの推進」

～コミュニティ・スクール～

太田小学校

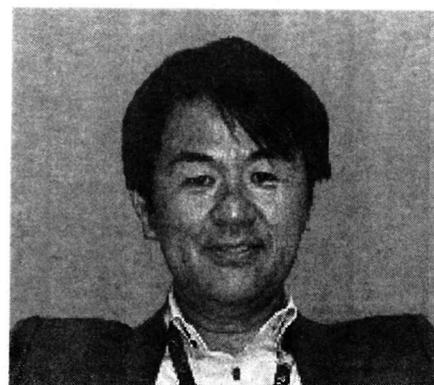
校長 千明 勉

## 一 学校の概要

本校は、岩槻城や城下町岩槻の歴史的な面影を色濃く残す地域に位置している。学区には令和二年に開館した岩槻人形博物館がある。全校児童数六百名が素直に元氣よく学んでいる。

## 二 研究のねらい

コミュニティ・スクールとは、



— 千明 勉 校長 —

学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する「学校運営協議会」を設置した学校

のことである。学校運営協議会は、学校・家庭・地域で、子どもたちを健全に育成する上での

目標やビジョンを共有することが重要である。本市では令和四

年度から全ての市立学校で実施することになっている。本校は

岩槻小、岩槻中と令和二年度に準備校として、令和三年度から

実施校として取組を推進している。本研究ではこれまでの取組

を整理し、今後の方向性を明確にすることを目的としている。

三 研究の概要

## (一) 準備校としての取組

① 中学校区で実施する理由

本校、岩槻小の児童は岩槻中に進学することと、中学校区で

共通する地域の教育力を効果的に活用できることにある。

② 準備委員会委員の選出

委員は各校で十名ずつ、合計三十名を目安とした。本校は、

現在の学校評議員及び学校関係者評価委員を基に、学校教育に

理解があり、新しい仕組みに適切な方という観点から、学校地

域連携コーディネーターと相談して人選した。

## ③ 準備委員会の開催

令和二年度の第一回委員会

は、「岩槻中学校区の子どもたちに身に付けさせたい力とは何か」をテーマとして熟議を行っ

た。

第二回委員会では、熟議の結果を踏まえ、中学校区で育てたい力について、「『かしこく』

生きる力」と『伝統（地域や学校等）』を感じる力』の二つ

を提案し、了承していただいた。

## (二) 実施校としての取組

① 今年度の熟議テーマ選定

令和三年度の第一回協議会では、はじめに各校長から学校経営方針及び目下の課題を説明し

た。各委員には、熟議のテーマを選定するため、中学校区で育

てたい力について、現在の取組

と課題について意見を伺った。

## ② 今後の方向性

第一回協議会で出された意見等について、現在取り組んでいる活動を周知し充実を図ること

と、今後取り組むべき課題として学力や体力の向上や情操教育

の充実に整理した。第二回協議会では、上記の意見等を踏まえて熟議を実施する。今年二月の

第三回協議会では、身に付けさせたい力の具現化に向け、発達の

段階に応じた取組を学校経営方針に盛り込み、承認を得られるよう準備する。

四 研究のまとめ

校長どうしでコミュニケーションを図る機会が増加し、信頼関係を形成できたことが成果である。今後は、「社会に開かれた

教育課程」の実現を目指し、保護者や地域の理解と協力を得られるよう、計画的、継続的に実

践を積み重ねていく。将来岩槻中学校区で育った子どもたちが

地元で活躍する姿を期待したい。

◇中学校教育の諸課題  
 「関係機関・外部の専門家との連携による、生徒指導の充実に向けた取組と課題」  
 三室中学校

校長 津田 顕吾

一 はじめに

○社会及び児童生徒を取りまく環境が大きく変化している。今、生徒指導上、学校だけで対応することが困難な事案が多く発生している。

○平成二十四年度、さいたま市中学校長会生徒指導部において同テーマで調査研究を実施しており、関係機関との連携の重要性を示していた。

○「学校相談支援チーム」の活動を基に「スクールロイヤー活用事業」が導入され、法的

見地からの助言を受けることが一層可能な状況となった。

二 各中学校における実態（さいたま市中学校長会アンケート結果より）

(一)連携の内容

○校長がこれまで関係機関と連携した内容として多かったのは、「不登校」「児童虐待」「緊急度に係る対応」「保護者対応」であった。

○保護者対応について『保護者対応が困難になる背景には、学校側の不適切な対応に起因するケースが少なくないため、不備については見直しを図り、改善する必要がある（令和二年三月さいたま市教育委員会

発行「スクールロイヤー活用に係る事例集」』とある。  
 ○対応の難しい事案が発生した際に、情報を早く収集し、正しい判断を下せる体制づくりが重要である。

(二)連携した関係機関  
 ○校長がこれまで連携した関係機関として多かったのは「児童相談所」と「警察署」である。

○保護者対応については「弁護士（スクールロイヤー）」に

相談したケースが多くなってきている。

(三)連携に係る課題

○連携の内容や手立てが分かりづらいと考えるのは「福祉事務所」という回答が多かった。

○学校にはSW（スクールソーシャルワーカー）制度が導入されてはいるものの、教育と福祉での連携は様々な面で課題が残る。

○学校から個人や家庭へのアプローチが困難になるケース、医療や福祉的な支援が必要となるケースが増加していると思われる。

(四)弁護士（スクールロイヤー）の活用

○活用したことがあると回答した三十三校が「法務相談の実施」を挙げている。

○今後、予防の観点からいじめ防止の授業や講演会、教職員向けの研修会がさらに増えていくことが望ましい。

三 まとめ

○本市の生徒指導総合計画「子ども輝きプラン」では『全ての教育活動を展開する際、子どもたちに「自己存在感を与えること」「共感的な人間関

係を育成すること」「自己決定の場を与え、責任ある行動をさせること」の三点に留意する必要がある』と述べられている。

○「法化現象」とも言われる対応が困難な事案に対して、学校が疲弊することなく対応していくために、関係機関との連携や専門家からの適切な指導助言を受けることは「働き方改革」の視点からも有効であるといえる。

○事案が発生したときに突如連携するのでなく、日常的に連携を図り、来る向きに向けて準備をすることが大切であり、再度、以下四点の重要性をさいたま市中学校長会として改めて確認したところである。

□校内の指導体制を確立すること

□全教職員の共通認識や日常的な情報交換等、組織的な指導と連携を図ること

□連携する各機関の役割や業務専門性を十分に理解すること

□関係機関へ提供する生徒の個人情報について、十分留意しながら進めること。



— 津田 顕吾 校長 —

## ◇生涯学習上の諸課題

「地域の人々と郷土愛を育み、歴史と文化を共有するために」  
 ～与野本町公民館での取り組み～

さいたま市退職校長会

金子 泰久



— 金子 泰久 会員 —

私は与野の公民館にお世話になってあまりにも地域のことを知らないと感じました。そこで街を歩いたり「与野市史」に当たったりして地域の歴史を調べました。その中で気づいたことが四つあります。第一は、浦和、大宮、岩槻とは違った市場町としての風情が本町通に残っていること。第二に、コンパクトな街の中に神社・仏閣が数多

く残っていること。第三に、民話・伝説が数多く残っていること。第四に、かつては民俗・伝統芸能が盛んだったこと。この歴史を公民館の講座に生かさないか考えました。

## 一 特色ある与野の歴史

江戸時代から明治時代に最盛期を誇った「与野の市」は、四と九のつく日の六斎市として月六回開かれ、このお客を目当てに見世物師や大道芸人も集まり多くの人で賑わっていました。現在でも本町通りから母屋の前を開けての町並みに当時の面影を見ることが出来ます。民俗芸能も各所で行われており、円阿弥の「万作踊り」や大戸の神樂が神社で奉納されていました。街の中に神社、仏閣が多く、町衆が長きにわたり支えてきたことがうかがえます。弘法大師や八幡太郎義家の奥州征伐を含め民話・伝説も多く残されています。

## 二 伝統芸能で呼び起こす地域の歴史

かつて盛んだった与野の伝統芸能・大衆芸能は、後継者不足などの影響もあり、現在は鑑賞する機会がほとんど無くなっています。こうしたことから、私は地域の歴史を今に呼び起こすべく、様々な伝統芸能・大衆芸能の講座と地域歴史講座を併せて企画・実施してきました。ここ数年では、「講談」「落語」「津軽三味線」「箏とバイオリン」などの洋楽器とのコラボ、そして今回文部科学大臣賞「優良公民館」として表彰された、「浪曲与野本町亭」などを主催講座として開催してきました。

## 三 浪曲与野本町亭

浪曲は、「忠臣蔵」などの歴史物語を、浪曲師が「節」と呼ぶ歌と「啖呵」と呼ぶセリフによって語り、これに曲師が三味線で即興の伴奏をつけ二人一組で演じる芸能です。今回、この講座を実現するきっかけとなったのは、私が(社)日本浪曲協会に直接電話したことがはじまりで、東家三楽会長と直接お会いする機会をいただき、講座の意図や与野の市の歴史などをお伝えしたところ、快くお受けいただき実現しました。

公民館職員は、講座を含めて「企画力」が必要で、地域の歴史から学び地域の人々と郷土愛を共有しつつ、新たな企画や試みに向かって努力することを痛感したところです。公民館の講座に参加される方々が自らのライフワークとなる研究課題が見つけられるような講座の企画、さらには歴史や文化財だけでなく、与野公園の自然にスポットを当てるなど地域資源を活用した事業を展開します。

今後も主催講座の充実とサークル活動の支援を二本柱に、学びのきっかけづくり、地域課題の解決、人々のつながりを育む場を目指し、地域に愛される公民館づくりを進めていきます。

★施設紹介★

「自然の家 基本理念」

自然に触れ

自然に学び

自然で鍛える

さいたま市立

館岩少年自然の家

所長 佐藤 浩市

本所は、昭和五十六年に、

「大宮市立館岩少年自然の家」

として福島県南会津郡の館岩村

に開所し、今年四十周年を迎え

ました。広大な敷地と充実した

施設、豊かな自然環境を生かし、

自然体験活動と集団宿泊体験の

拠点として子どもたちの豊かな

心を育んできました。平成十三

年には、さいたま市の誕生によ

り「さいたま市立館岩少年自然

の家」と名称を変更しました。

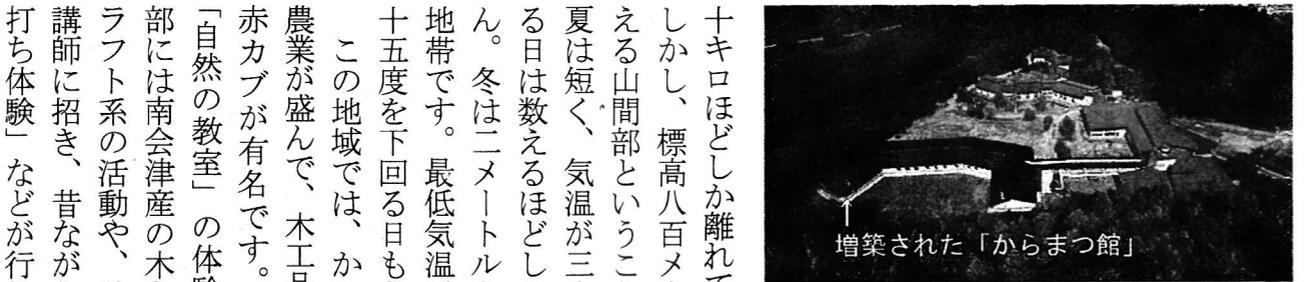
その後、平成二十年には新館

「からまつ館（二百人収容）」が

増築され、さいたま市立全ての

小中学校の「自然の教室」の拠

点として充実した施設となりま



増築された「からまつ館」

を超える  
児童生徒  
たちが利  
用してい  
ます。

ここ館

岩の環境

について

は、さい

たま市か

ら直線に

して百数

十キロほどしか離れていません。

しかし、標高八百メートルを超

える山間部ということもあり、

夏は短く、気温が三十度を超え

る日は数えるほどしかありません。

冬は二メートルを超す豪雪

地帯です。最低気温がマイナス

十五度を下回る日もあります。

この地域では、かつて林業や

農業が盛んで、木工品やそば粉

赤カブが有名です。そこで、

「自然の教室」の体験活動の一

部には南会津産の木を使ったク

ラフト系の活動や、地元の方を

講師に招き、昔ながらの「そば

打ち体験」などが行われていま

す。また、近くでイワナの養殖  
が行われ、入手が容易であるこ  
とから「イワナさばき」の体験  
活動を、食育や生命尊重のねら  
いをもって多くの学校が行って  
います。

夏の「自然の教室」の主な活

動には、前山登山、イワナさば

き、星空観察、キャンプファイ

ヤー、ナイトハイクなどがあり

ます。さ

いたまで

はなかな

か体験で

きない活

動です。

児童一人

ひとりが

達成感や

感動を味

わう活動や、仲間との協力やふ

れあいなどが得られる活動となっ

ています。また、焼き板やフィー

ルドワーク、源流探検なども人

気のある活動です。雨天時には

クラフト系の活動（コースター、

ぶんぶんゴマ、小枝えんぴつづ

くりなど）を中心に自然物を使っ



た活動を行っています。

冬の「自然の教室」は、三日

間を通して、スキー活動を中心

に技術や体力の向上と、地元の

スキー指

導者との

ふれあい

と交流を

深めます。

夜には自

然の家の

敷地内で、

かんじき

体験や雪灯ろうづくりを通し、

厳しい冬を過ごす工夫や知恵を

学びます。各学校が活動を工夫

し実施しています。

また、主催事業として、夏と

冬に「家族の集い」を開催して

います。市内の児童生徒とその

家族を招き、会津高原の自然に

親しみ、家族の絆を深める活動

を行っています。館岩少年自然

の家を拠点とした自然体験を通

し、市民の方々に本所の存在価

値をご理解いただくと同時に、

自然体験活動の教育的効果を広

める機会にもなっています。



# 班だより

## ○浦和班 三村 昇

さいたま市浦和退職校長会は今年度八名の新会員を迎え、二百十四名でスタート。役員改選の本年度、金子敏夫新会長の下、「会員の親睦と福祉の増進、教育の振興に寄与」を目的に事業計画を立てました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染防

止のため、各事業の実施は難しい状況ですが、実施状況等について報告します。

### ◇総会・長寿祝賀会

#### 並びに新会員歓迎会

総会は中止とし書面報告。会員からの決議及び意見等は返信文書にて回収し、「うらわかい通信」で紙面報告としました。

長寿祝賀会（喜寿・米寿）及び新会員歓迎会は十二月十九日（日）に延期し、令和二、三年度の対象者合同での開催で実施

しました。

### ◇一日研修会

「わくわく大人の社会科見学」

河川と水、匠の技を探る

令和四年二月に延期実施予定

### ◇親睦旅行

西伊豆方面へ 本年度中止。

### ◇講師等紹介システムの構築

会員の専門的知識・技能・特技や趣味を教育振興に寄与する事が目的です。充実させていきます。

### ◇うらわかい同好会活動

多くの同好会が社会状況を考慮の上、活動自粛中です。

### ◇ホームページリニューアル

◇年末懇親会 本年度中止。

今年度の事業は、殆ど中止せざるを得ませんでした。幹事会、理事会は最低限度開催しました。

活動状況は「うらわかい通信」で報告したり、ホームページで紹介したりしています。班以外の方も、是非、検索してみてください。

## ○与野班 佐々木克己

さいたま市与野班退職校長会は、今年度二名の新会員を迎え、桑原裕通会長以下全五十二名でスタートしました。

本会の主な事業は、年度当初の定期総会、年末の現職・退職校長教育懇談会、年あけに行われる研修会の三つです。また、こうした事業の準備を中心に幹事を例年四回開催しています。しかし、今年度も、新型コロナウイルス感染予防のため、定

期総会、現職・退職校長教育懇談会及び研修会が中止となりました。なお、幹事会については、

四月九日、十月二十二日そして十二月三日に開催し、第四回は年度末の三月に開催を予定しています。

### 一 定期総会

昨年に引き続き、一同参集しての会議の代わりに、総会資料を配布しての紙上総会という形をとりました。

また、例年、定期総会終了後

に開催される与野班退職校長教育懇談会も中止となりました。

### 二 現職・退職校長教育懇談会

関係の皆様のご意見をお聞きしながら、また感染状況なども見ながら、開催に向けて直前まで検討を重ねてまいりましたが、安全最優先ということと致しました。今年度も中止することと致しました。

### 三 研修会

今年度は十月二十五日に下落合公民館を会場に、昨年度新型コロナウイルス感染防止対策の

関係でお呼びできなかった宮田学氏を講師として、「デジタル社会の基礎知識」と題しまして、講義及び質疑応答を通して研鑽を深める予定でした。

しかし、新型コロナウイルスの感染の状況を踏まえ、関係の皆様のご意見等もいただきながら、大事をとって今年度も中止とし、紙上研修に代えさせていただきます。

来年度こそ、穏やかな日常が戻ることを願うばかりです。

○大宮班 溝口 正己

【感染予防に考慮して】

コロナ禍にあつて二年目。感染予防に配慮しながら、今年度も以下の事業を実施した。

○五月の大宮退職校長会総会は中止。四月の新旧理事会をもって本年度の役員・事業計画を承認。加々美会長に代わり、藍川達雄副会長が新会長に就任。八名の新会員を迎え、二百二十四名でスタートした。

○新・旧理事会（四月）○定例幹事会・理事会（六・九・十二・三月）

○広報部会・研修部会（六・十月）  
○福利厚生部会（十一月）  
○美術展実施委員会（七・十二月）

【英気を養う】

○会員の楽しみの一つである懇親旅行は残念ながら中止となったが、史跡めぐりを実施。十一月十六日「大宮氷川神社と太宰治ゆかりの地」を探索。二十名を超える参加者が、大宮観光ガ

イド会の太宰ゆかりの話などに熱心に耳を傾けながら、深まる秋の一日を楽しんだ。

○十月二十七日「コミュニティスクールに伴う学校の取組み」について、市教委・生涯学習部参加の竹居秀子先生からお話を伺った。今日的な課題に活発な質疑応答があり、大変盛り上がる研修会となった。本内容は、十二月の理事会で報告された。

【歴史を重ねて】

○一月三十一日から二月六日まで大宮図書館で開催予定であった大宮退職校長会美術展は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ昨年に続き中止となった。

○例年、見学者から「元氣がもらえる」「懐かしい先生のお名前があつた」などの声が寄せられる。昨年、二十周年を迎え、歴史を重ねる美術展。会員にとっては活力アップの場にもなっている。

○岩槻班 岡野 功

さいたま市岩槻班退職校長会は、今年度一名の新会員を迎え、新里新会長のもと四十九名で、精力的に以下のことに取り組んだ。

I 新規事業の立ち上げと既存事業の改善

昨年度の会員アンケートを踏まえ、四つの新規事業の推進会議を立ち上げるとともに、八つの既存事業の改善会議を設けて

工夫改善を図った。

また、各会議の提案を役員会で協議し、実施できる事業はコロナ対策に万全を期して実施した。

一 定期総会

四月十九日（月）、十八名の出席のもと開催、新役員や事業計画等が承認された。なお、来賓の出席と懇親会は見合わせた。

二 日帰り研修旅行

十一月四日（木）、十五名の

参加を得て、埼玉一記念館、渋沢栄一記念館などを見学した。

どこも貴重な資料や案内人の説明から、二人の偉大な業績、強靱な精神や高い人間性などに触れ、深い感動を覚えた。

三 「同好会設置要綱」の作成と会の承認

要綱に基づき、新正会（囲碁）が同好会として承認された。三月までには、連携を深める現・退職教育推進協議会の開催

趣向を凝らした会報の発行、新たな企画研修会の実施などを計画している。

II 事業運営スタッフの募集

現在、会の運営を役員とともに推進していく「事業運営スタッフ」を募集する手続きを進めている。

斬新なアイデアを生かして、会員がより必要感や所属感を高める会にしていきたい。

談

話

室

— 私の一言 —

## 追憶

小林 俊雄

目の前が真っ白になった。舞台の上でスポットライトを浴びたまま歌詞が出てこない。

卒業生を送る会が終わった後、生徒、保護者、職員は何事もなかったようにしている。白昼夢だったのだろうか。気さくな保護者が、「先生どうしたの。」と声をかけてきたので現実だと理解できた。

身近な人に自死があると次は自分かもしれないという不安が頭を持ち上げる。赴任をした四月に生徒から「先生に相談しても何も変わらない。」「校長先生に相談しても変わらない。」と言われた時、とても寂しい気がした。それと同時にその生徒の「現状を変えたい。」という強い

意志を感じた。

そこで私は、校長会以外の全ての出張をやめた。そして、「退職までの三年間をこの子ども達とともに過ごす。」と決めた。

優秀な子ども達だが、何か足りない。それは何か。希望、安心、自信、・・・

まず、地域の方に生徒を応援していただくために学校の周囲の草を刈り、木々の下枝を払い、卒業生が植えたアジサイの花を咲かせ、毎朝地域のゴミを拾い、校舎は生徒の作品や活動の様子でいっぱいにした。次に、生徒に自信や夢や希望を持たせるために部活動、生徒会活動、主要教科以外及び教養を大事にした。安全を守り安心していただくために大学や専門機関の力を借りて教育相談を充実させた。

そして迎えた三年目、スポーツライトに三年生の笑顔が見えた。

※ ※

## 赤城の思い出

常見 昌弘

五年生の作文題のようで恐縮であるが「赤城少年自然の家」には私の思い出が沢山ある。

「赤城少年自然の家」は、昭和四十八年開所、平成二十八年三月三十一日（私の定年退職と同じ日）閉所。延べ七十六万人が利用したそうである。

私がお世話になったのは、五年担任の時は勿論であるが、市教委で赤城担当指導主事として、夏冬の臨地研修会や自然の教室補助員の学校への派遣業務の關係もあり、当時の所員の皆さんに大変お世話になった。

夏の赤城は、何といっても地藏岳への登山で、山頂からの関東平野の眺めは格別であった。

また、冬の赤城は「スキー教室」が子ども達の一番人気であった。（冬は他にやる事が無い）何回か五年生の担任をしたが、

夏の赤城だけしか体験できなかった私だったが、幸いなことに、市教委の赤城担当指導主事の時に、初めて冬の赤城を体験することができた。

自然の家にあったスキー板は、一般的なスキー板よりも幅広で短い「ファン・スキー」というスキーで、実際のスキーよりも「ウイスキー」の体験のほうが多かった私には、この扱いに苦労したという思い出もある。

子ども達も、この板に慣れるまでは「ファンスキーでなく、不安スキー」という感じだったが、三日目には、ストック無しでスイスイ滑れるようになり、子ども達の上達に驚かされたことも懐かしい思い出である。

私の定年と閉所時期が重なり、開所準備や自然の家運営に尽力された関係の皆様へ御礼を伝えることができなかった。

この紙面を借りて改めて御礼の気持ちを伝えたい。「赤城少年自然の家、ありがとう」。

## 気ままに 有意義に そして時間が足りません

小林 達哉

私は現在、保護司をしています。対象者が無事に保護観察を終えて立派に更生した姿を見ると、とてもやりがいを感じます。でも、あんなに打ち解けて話をしていたのに、大きな嘘をつかれていたことが判明したり、保護観察期間中にさらなる罪を犯したことが判明したりした時には、自分の非力に苛まれます。しかし、「あせらず・あわてず・あきらめず」の気持ちで今後も継続しようと思っています。

次は趣味の話です。約六十坪の家庭菜園で四季折々の野菜を育てています。春から夏は害虫や雑草との戦いですが、実った野菜たちに頼ずりをしながらおいしくいただいています。

また、連続した休みが取れた時には、ふらつと気ままに車中泊に出かけます。今まで北海道・東北・北陸・信越・東海・近畿・

中国等を回り、その土地のグルメを堪能してきました。特におすすめの色丹半島のムラサキウニとバブンウニの二缶丼(時価)、糸魚川の道の駅マリンドリーム能生のかにや横町の山盛りのベニズワイガニは最高でした。

さらに気が向いた時には、溪流管理釣り場に行き、テンカラ(竿・糸・毛ばりのみで釣る釣法)でイワナ・サクラマス・ブルックトラウト等のサケ科の魚を釣って楽しんでいきます。毛ばりを落とす場所、落とし方や流し方等、未だに試行錯誤です。また、毛ばりは全て自作です。で、少し工夫を加えた毛ばりで大物が釣れた時には、心臓の鼓動が聞こえるほどです。小物は大物になってからの再会を願って放し、三〇五センチ級の大物のみ持ち帰り、定番の塩焼き、刺身、漬井等にして堪能しています。今後は一時休止していた海釣りにも再挑戦しようと考えています。時間が足りません。

## お洒落すべし

柴崎 邦夫

二〇一九年からの新型コロナウイルスの影響で私は、自宅に籠ることが多くなった。

漸く感染が落ち始めた昨年の秋に話題となった映画『最後の資金がありません!』で姑役を演じた草笛光子さんが、テレビ番組で「老いとは億劫との戦いです」と述べられ大きな反響を呼んだ。しかし、ご多分に漏れず、億劫との戦いに敗れた私は、ぐうたら生活に終始していた。まして、お洒落をして外出するなど考えもしなかった。

お洒落と言えば、私の学生時代の恩師である剣道師範のS先生は、よく「お洒落をしなさい」と言われた。何故『お洒落すべし』なのか。今では聞かずもないが・・・先生は、着装を大事にされた。剣道では身支度を整えることを着装と言うが、着装の乱れを極端に嫌う。それ

は、【例えば、世が世であれば】袴の紐が解けて、袴の裾で足を取られて転べば、命にかかわることになるからである。現在でも、剣道は竹刀で定められた部位を打ち合う競技なので、着装の乱れは、即、大怪我に繋がる。逆に、着装が決まっていれば、安全でしかも、立ち居振る舞いも美しい。また、お洒落は相手に対する礼儀の一つでもある。

それに、お洒落をしようとすれば、自ずと鏡に向き合い、自らを見つめ直す絶好の機会となる。

このように『お洒落すべし』は、ずぼらな私に対する先生の洒落の効いた教えだったのかもしれない。

心の乱れは、形に現れると言ふ。ならば、「形から入り、心を養う」これも可であろう。

今年は、お洒落をして外出するとしよう。

## 人との交流

駒宮 寿夫

昨年、十一月三日に「さいたま市立館岩少年自然の家 開所四十周年記念式典」があり、これに出席した。まだコロナ禍であり、招待者もある程度限定しての開催であった。

それまで緊急事態宣言等の発出もあり、不要不急の外出は控えていたので、日帰りではあったが、実に久しぶりの遠出ドライブとなった。時季的に、ちょうど見ごろであった紅葉を楽しみ、旅行感覚を味わった。

私にとって「少年自然の家」がある福島県南会津町は、第二の故郷といえるところである。指導主事として四年、所長として二年、生活をし、勤務した。埼玉に戻ってからも年に一度は館岩地区にいったりして親交を深めていたが、コロナウイルスの感染拡大に伴いそれも叶わない状況であった。今回の式典参加で、

当時お世話になった方々と再会し、実に嬉しかった。それぞれがそれぞれの人生を歩んでいるが、ほんの少しかもしれないがその接点がお互いの人生を豊かにしているものと思う。お世話になった方々に感謝しつつ、当り前ではあるが、人との交流（コミュニケーション）がいかに大切かを改めて感じた。世の中が、一刻も早く平常に戻ることを願うばかりである。

二十年前の「開所二十周年記念式典」では私は勤務職員として企画・運営する側で参加した。二十年後、来賓として出席し、隔世の感を禁じ得ない。現在、館岩少年自然の家は、全てのさいたま市立の小・中学校の自然の教室を実施している。新館ができ、駐車場も広がり、今年からは初の女性指導主事が勤務する等、時代の趨勢を感じるが、自然の素晴らしさと村の方々の温かさは変わっていない。

## しあわせを

### 感じる時

益子 聡

三十歳前後からだろうか。幸せな生活を送りたいと思って生きてきたのは。

それから三十年。人生六十を過ぎた今も幸せになりたいと思っている。

幸せとは何だろうか。

最近、私が「しあわせ」と言ったのは二日前だ。家族で温泉旅行に行き、湯上りによく冷えたビールを飲み、夕食には季節の美味しいものを食べて「しあわせ！」と言っていた。

私が「しあわせ」と口に出すのは、家族の誕生日に皆でケーキを食べている時であったり、孫と一緒に公園の芝生の上で弁当を食べている時であったり…。

私を感じる幸せの瞬間とは、いつもささやかである。

例えば、研究発表会での授業公開に向けて教材研究等に長い

時間をかけ、当日の授業が無事に終わった時「しあわせ！」と言う人がいるだろうか。「やったー」「終わった」とガッツポーズはするかもしれない。

幸せを感じる時というのは、美味しいものを食べた時とか、心が穏やかな時にふわりといい雰囲気になった瞬間とか、そんなものではないだろうか。

改めて考えてみると、私は「しあわせ」という言葉に大きな意味を持たせ過ぎていたのかもしれない。

幸せになるために生きるとはどういうことだろうか。

幸せは目指すものではなく、人生を無理をせず自分なりに毎日真面目に謙虚に生きていけば、きっと幸せは、ひょこっと顔をのぞかせるのだと思う。



# 身近な昆虫の北上

萩原 昇

近年、「これまで経験したことのない豪雨」や「最大級の台風」が襲来し、昨年も各地で大きな災害が発生した。これは、海水温が上昇し、大量の水蒸気が発生するためと言われている。「遂に地球温暖化がここまで来たか」と独り呟く日々が続く。昨年、眞鍋淑郎氏がノーベル物理学賞を受賞した。眞鍋氏は一九五〇年代から気候変動のしくみを研究し、一九八九年に二酸化炭素などの温室効果ガスと温暖化に関する論文を発表した。この頃から、熱波や干ばつによる被害が世界各地で頻発し、地球温暖化が問題視され始めた。教育現場でも環境教育の必要性が叫ばれ、私が勤務した蓮田市教委でも、一九九六年「蓮田市環境教育実践事例集」を発売し、黒浜小では環境教育研究発表会を実施した。しかし、環境

教育の高まりは、その後の教育課程編成方針の混乱等により、次第に薄れてしまった。

眞鍋氏が半世紀以上前から予測したことが現実となったが、COP26では、各国の足並みがそろわず、パリ協定の目標達成が、またもや先延ばしされた。

今日の災害の多くは、人々が温暖化に危機感を持ち、早期に対策を講じていれば軽減されたはず。昨年発刊された【さいたま市史・自然編〜昆虫〜】に、「以前は九州や沖縄以南に分布していた昆虫が温暖化に伴い分布を北に広げ、一九九〇年頃から市内で増加し、現在では普通種になった」との記述がある。

環境教育で「地球規模で考え、足元から行動する」を訴えてきた。今更遅い感もあるが、身近な自然の変化に目をむけ、脱炭素社会の構築、SDGsの取り組みが広がりつつある中、自分にできることを実践していきたい。

## 奉祝 叙勲受章者 [令和3年度]

春の叙勲	上村 忠男 氏(大宮) 瑞宝双光章 受章
------	----------------------

## 慶祝 ご長寿者 [令和3年度] (敬称略)

米 寿 満88歳	莊司喜久子 (浦和) 金子 健地 (大宮)	久保田寛夫 (大宮)	三富 健三 (大宮)	竹間 良二 (大宮)
傘 寿 満80歳	山崎 千里 (浦和) 森 信裕 (浦和) 荒尾 俊之 (与野) 高橋 豊 (大宮)	内田 武司 (浦和) 椎名 義春 (浦和) 水谷 敏子 (与野) 静井 眞治 (岩槻)	原田八十二 (浦和) 齋藤 松夫 (浦和) 河原塚順司 (大宮)	田島 道子 (浦和) 水谷 靖二 (与野) 野本 敏之 (大宮)

### 編集後記

会報第35号をお届けいたします。昨年度に引き続き今年度も、さいたま市退職校長会各種事業の実施にあたり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から計画を変更いたしました。皆様方におかれましてはご理解いただくとともに、それぞれ感染防止に努められますようご祈念申し上げます。今回も多くの皆様方からの貴重な玉稿をお寄せいただき、誠にありがとうございます。これからも多くの会員の皆様方からの貴重なお声をお待ちしております。

(広報部担当幹事 佐々木 克己)